

パブリックコメント意見募集の結果公表

帯広市まちづくり基本条例適合状況等の検討について（原案）に対して、市民の皆様からご意見を募集しました結果について、ご意見の概要と市の考え方は下記のとおりです。ご意見をお寄せいただきありがとうございました。

寄せられたご意見等について検討した結果、パブリックコメントを踏まえた修正は行わず、別紙のとおり取りまとめましたので公表します。

【意見募集結果】

案 件 名	帯広市まちづくり基本条例適合状況等について（原案）		
募 集 期 間	令和3年9月13日（月）～ 令和3年11月1日（月）		
意 見 の 件 数 （意見提出者数）	5件（ 5人）		
意 見 の 取 り 扱 い	修正	案を修正するもの	件
	既記載	既に案に盛り込んでいるもの	件
	参考	今後の参考とするもの	件
	その他	意見として伺ったもの	5件
意 見 の 受 け 取 り	持参		人
	郵送		人
	ファクス		人
	電子メール		5人

【意見等の内容】

NO	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
1	<p>【子育てのしやすいまち】</p> <p>少子化対策として、他自治体で行われている一時金や子育て用品支給などの出産祝い事業について実施検討をいただきたい。</p>	1件	<p>【その他】</p> <p>子供や子育て世代への支援は、子供のライフステージに応じた包括的な支援が重要であると考えています。</p> <p>本市では、妊娠期から子育て期の相談体制の充実を図り、安心して子どもを産み育てる環境づくりを推進するため、子育て世代包括支援センター事業などを通し、一人ひとりに寄り添った丁寧な対応を行っているところです。</p> <p>今後も施策の優先度や他の施策とのバランスなどに配慮しながら、子育てをしていくご家庭が、安心して子どもを産み育て、子どもたちが健やかに成長できる取り組みを総合的に進めていく考えです。</p>

NO	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
2	<p>【町内会、ごみステーション】 住宅を建てたが、町内会への勧誘がない。</p> <p>また、コロナ禍の影響によって自宅で過ごす時間が多くなっており、ごみステーションのサイズや場所などを考え直してもいいのではないか。</p> <p>資源ごみの収集日についても分散した方がよいと思う。</p>	1件	<p>【その他】</p> <p>町内会は、それぞれの地域に住んでいる人たちが自らの手で住みよい地域づくりに取り組むための任意団体であり、転入者・未加入者への声掛けは、町内会が主体的に行っていますが、令和2年以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動や加入の呼びかけを控えている町内会も見られます。</p> <p>町内会への加入について、市では加入を呼びかけるチラシの作成のほか、ホームページや広報紙などを通じた意識啓発、町内会加入希望者と町内会役員の仲介 (https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/kurashi/chonakai/katsudo/1002971.html) などを行っており、今後もこうした町内会活動支援の取り組みを進めていく考えです。</p> <p>ごみの収集は、市民生活に密接に関わるものであり、家庭から排出されるごみを市民の皆様と市の役割分担のもと、安定的かつ確実に収集・運搬し処理することが必要であると考えています。</p> <p>こうしたことから、ごみステーションの設置・管理は、利用するそれぞれの町内会や共同住宅の所有者又は管理者にお願いしており、ごみステーションの大きさや設置場所の変更につきましても、町内会及び利用される方々でご協議いただく必要があると考えております。</p> <p>今後も、ごみの発生抑制と適正分別及び適正排出について周知を図りながら、排出量に応じた計画的な収集運搬体制の構築に努めてまいります。</p>
3	<p>【安心安全なまちづくり】</p> <p>自衛隊機の訓練の必要性は理解出来るが、なぜ文教地区や住宅密集地上空を飛行しているか理解できない。</p> <p>以前市へ問い合わせを行い、協議して改善するとの回答があったが、一向に改善されていない。事故が起きてからでは取り返しがつかない。</p> <p>市民が不安なく暮らせるよう、安心安全なまちづくりに取り組んで欲しい。</p>	1件	<p>【その他】</p> <p>協働のまちづくりを推進する上で、市民が安全で安心して暮らせる環境づくりを進めていくことが必要であると認識しています。</p> <p>ご意見のあった自衛隊機の訓練については、帯広市と自衛隊との間で「環境保全に関する協定」を締結しており、航空機の騒音の軽減や市民生活の安全確保を図ることとしています。</p> <p>この協定に基づき、これまでも自衛隊に対して、航空機の適正な管理や運用について要請してきているほか、自衛隊とは例年、意見交換会を行っており、市民の皆様からいただきましたご意見などを伝えてきています。</p> <p>今後も自衛隊に対して、事故が起きないように、航空機の適正な管理や運用について、引き続き要請するなど市民が不安なく日常生活を送ることができるまちづくりに取り組んでまいります。</p>

NO	市民の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
4	<p>【交通機関の不便さ】 地域公共交通環境の充実について、誰もが運転免許や自家用車を保持できるわけではないので、移動を行うためには路線バスなど地域公共交通の利用が不可欠。 特に冬期間は待ち時間や待ち空間などに課題を感じており、環境の充実に図ってほしい。</p>	1 件	<p>【その他】 地域公共交通は、日常生活や社会経済活動を支える重要な都市機能の一つと認識しております。 帯広市では、地域公共交通網形成計画に基づき、効率的な路線ダイヤの見直しをはじめ、バス待合環境の整備などを交通事業者と連携して進めており、商業施設や郵便局、医療機関と連携した施設内への待合スペースや、上屋付きバス停の設置を行ってきたところです。 今後も地域公共交通の現状や課題について、交通事業者をはじめ関係機関と協議しながら、待合環境の改善など利便性の向上や公共交通ネットワークの確保・充実に向けて取り組んでいく考えです。</p>
5	<p>【まちづくりへの市民の参画】 まちづくりを推進するためには、若年層の自主的な参画が必要になると思う。 例えば地域福祉の活性化には、ボランティアなど社会資源の活性化が重要となるが、こうした取り組みに市民が参加しやすいよう、いわゆる「ボランティアポイント」の導入について検討してはどうか。 取り組みを通じた成功体験を積み重ねることで、継続性のある活動に繋がっていきけるのではないかと。</p>	1 件	<p>【その他】 協働のまちづくりを推進するため、帯広市の未来を担う若年層の方々に、様々な活動を通じてまちづくりに参加いただくことが重要であると考えています。 帯広市ではこれまで、附属機関等の委員について青年層（50歳未満）の登用を進めてきたほか、学校などと連携した青少年のボランティア活動の促進や、ボランティアセンターを通じた若年層の活動団体への支援などにより、ボランティア活動の活性化を図ってきたところです。 ご意見のあった「ボランティアポイント」については、過去に介護予防事業で試行的に取り組みましたが、効果的に実施するには課題が多いと捉えています。 今後も活動者や各種団体などと連携しながら、若年層を含めた多くの市民が、主体的にまちづくりに参画できる環境づくりを進める考えです。</p>

【案件の検討結果】

別紙のとおり